

あなたにぴったりの受講スタイルは？

積み重ねてきた経験や業務上の立場によって、受講スタイルは異なります。自分には、どのコースがぴったりなのかチェックしてみましょう。

A 合計 個

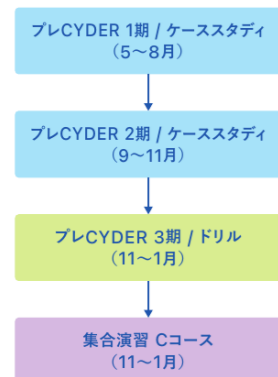
- 情報システム担当として3~4年以上の経験を有し、実務レベルでのインシデント対応を強化したい
- Bコースを修了して、より高度な分析・判断スキルを習得したい
- インシデント発生時の分析・対処・予防策を深く理解し、組織のセキュリティ強化に貢献したい
- grepなどのコマンドを活用したログ解析の経験があり、実践的なインシデント分析力を強化したい
- コミュニケーションを取りながらチームで問題を解決し、積極的にディスカッションや意思決定に参加できる

Aのチェックマークが最も多い
あなたにぴったりの受講スタイルは

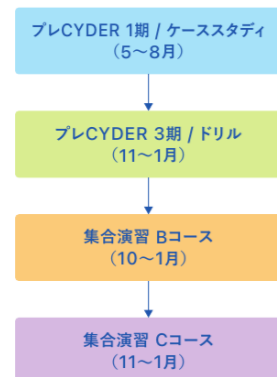
部門リーダースタイル



例1: 部下への教育導入判断のためにプレCYDER(1期・2期: ケーススタディと3期: ドリル)、その後自分のスキル維持のためにCコースを受講。



例2: プレCYDER(1期: ケーススタディと3期: ドリル)の後に部下と同じグループでB / Cコースを受講し、組織としての体制を強化。



B 合計 個

- 情報システム担当の経験2年以上相当の知識を持っている
- CSIRTにおいて関係部署や他組織との連絡調整、分析や対応方針検討等のインシデント対応作業を担う立場である
- コンピューターとネットワーク(特にWindowsとTCP / IP)及びサイバーセキュリティに関する基礎知識を持っている
- CSIRTの他のメンバー、上司、ベンダー等と適切に情報共有し、インシデント発生時に自らすすんで対応できるようになりたい
- パソコン、サーバー、ネットワーク機器等のログを監査できる、もしくは監査作業の内容を把握できるようになりたい

Bのチェックマークが最も多い
あなたにぴったりの受講スタイルは

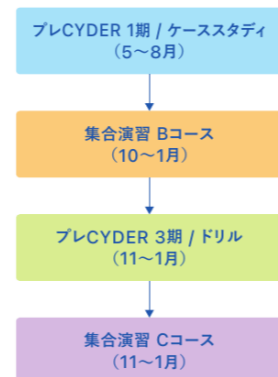
チームリーダースタイル



例1: 知識のアップデートのために、プレCYDER(1期: ケーススタディと3期: ドリル)を受講し、その後B / Cコースで実践を積む。



例2: プレCYDER(1期: ケーススタディ) / Bコースを受講後に、プレCYDER(3期: ドリル)を挟んでCコースで知識を深める。



C 合計 個

- 情報システム担当の経験2年以内相当の知識を持っている
- CSIRTにおいて関係部署や他組織との連絡調整、分析や対応方針検討等のインシデント対応作業を補助する立場である
- インシデント発生時の対応の流れを理解できるようになりたい
- ベンダーからの報告書を読み解き、ベンダーとの円滑な情報連携ができるようになりたい
- インシデントへの備えとして、事前に何をすれば良いかを理解できるようになりたい

Cのチェックマークが最も多い
あなたにぴったりの受講スタイルは

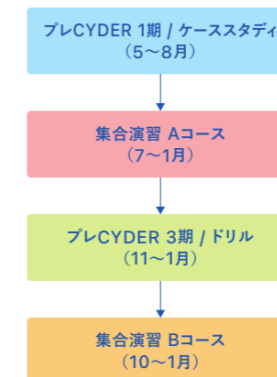
チームメンバースタイル



例1: プレCYDER(1期: ケーススタディと3期: ドリル)で基礎を固めた後に、A / Bコースで実践を積む。



例2: プレCYDER(1期: ケーススタディ) / Aコースを受講後に、プレCYDER(3期: ドリル)を挟んでBコースで応用力を強化する。



D 合計 個

- CSIRT / 情報システム課に配属されたばかりだ
- IT / DX推進リーダー、個人情報を取り扱う業務、パソコン作業を伴う業務に携わっている
- 組織の幹部層、経営層であり、インシデント対応への組織的な備えの重要性を理解したい
- 集合演習の受講へ向けて、インシデントハンドリングの基礎を学びたい
- 基礎的なセキュリティ用語や、ベンダーの報告書内の用語を理解したい

Dのチェックマークが最も多い
あなたにぴったりの受講スタイルは

ビギナースタイル



例1: プレCYDER(1期: ケーススタディ)で最初の一步を。その後プレCYDER(2期: ケーススタディ&3期: ドリル)で更に1歩。



例2: プレCYDER(1期・2期: ケーススタディ)とプレCYDER(3期: ドリル)で基礎を固め、Aコースで実践力を磨く。

